

フェンシング貫いた青春 有終

県高校夏季大会 女子フルーレ個人で優勝 愛知高・櫻木さん

8月22日に開かれた県高校夏季体育大会のフェンシング女子フルーレ個人で愛知高3年櫻木春乃さん(17)が優勝した。夏季大会は中止になったインターハイの代替大会で、有終の美を飾った。新型コロナウイルスの影響に揺れた半年間だったが、卒業後は来年の国体出場の可能性も見据える。

コロナでインターハイ中止 づらい時期も

来年の国体出場にも期待

夏季大会に出場した19人のうち、3年は櫻木さんだけ。「1、2年とは実力差があったけど、優勝はうれしかった」

それだけに最終学年の舞台に向け厳しい練習を積んできた。そんな中、新型コロナウイルスによってインターハイ中止の報が入った。「『終わった』と思って気持ちが切れてしまった」

泣き続けて自暴自棄になった。他校のライバルたちが引退していくのも聞き、練習に気持ちが入れなくなった。代替大会

の開催決定を聞いてもモチベーションが上がらない。そんな時OBの一人が「絶対出るべきだ」と背中を押してくれた。優勝は顧問や先輩への恩返しとも考えた。それでも、自分より力が上の相手と全力で戦いたかったという思いが残った。

愛知高でフェンシングをしてきた6歳上の姉の影響で、小2の時から競技を始めた。格上の選手と対戦することで競技に魅了されていた。練習の厳しさとともに、マイナー競技のつらさもあった。3年が引退すると、部員は自分1人になった。「辞めたい」。顧問の田部井崇博教諭(28)に相談すると「今までやれたのは3年のおかげ。次の1年を迎えるまで頑張ろう」と励まされた。周囲に支えられ部長を続けた。



8月の県高校夏季体育大会を制した櫻木さん(愛荘町愛知川・愛知高)

夏季大会を終えて引退し、来年は就職を考えている。今後のフェンシングとの関わりは未定だが、延期になった今年の国体には候補選手として名前は挙がっていた。社会人として来年出場するチャンスはある、と田部井教諭は期待をかける。

櫻木さんは「(フェンシングを)またやりたくなるかもしれない」と笑う。いろいろあったフェンシング人生。そう簡単に関係が切れるはずはない。(長谷川稔)

